

第3回「女性研究者のリーダーシップ」研究会のお誘い

この研究会は、愛知大学研究助成金による研究プロジェクト「女性研究者のリーダーシップ研究」の活動の一環として行われるものです。公開研究会ですので、研究会への参加は大いに歓迎いたしますので、興味のある方はどうぞご遠慮なくお越し下さい。

テーマ：

女性研究者の学問と生活

と き：2007年2月3日(土) 午後1:30～午後4:30

ところ：京都大学 百周年時計台記念館 会議室 IV

講演

① 田中恒子(大阪教育大学名誉教授)
タイトル「女性研究者として」

② 笥久美子(神戸大学名誉教授)
タイトル「よろず屋の女性研究者」



田中恒子先生は、2006年3月大阪教育大学を定年退職なさったのですが、在職中は生活科学や建築学、くらしの研究でよく知られた方です。また、教育大学では附属小学校の校長先生もなされ、いろいろな経験の中から、多様な活動をしてこられました。また、京大在職中は、女性研究者の会(当時は婦人研究者連絡会、通称ふけんれん)の事務局長として、女性研究者問題を全国展開された方です。保育所づくりをきっかけとしてできた「ふけんれん」が、現在の女性研究者問題への大きな発展への第1歩となったことを考えると、大変感慨深いものがあります。田中さんは、「ふけんれん」の思いを全国規模に広げられ、学術会議をもまきこんだ大きな流れとなった「婦人研究者全国シンポジウム」へと発展させられました。さらに、ご自分の専門をこえて、暮らしの科学を考え、教育にも熱心に取り組んでこられたとても元気な女性研究者です。

笥久美子先生は長らく神戸大学で中国文学・中国語を教えてこられました。多様な研究会を立ち上げ、そのなかで、自ら「よろずや研究者」だと名乗られ、多様な興味をテーマに多彩な活動をしてこられた方です。笥先生も女性研究者の会：京都の初代代表として、多くの後輩たちを励ましてこられました。また、京大保育所で保護者会長などをされており、ながらく中国での研究生活をなされ、帰国されたときには、「ふけんれん」で、中国の女性の現状を話していただいたこともありました。まさに女性研究者のリーダー的存在で、常に後輩を励まし、指導されておられたことは、皆様よくご存知と思います。

今回は「女性研究者」がどう新しい分野や広い世界で活躍してきたか、保育所問題と関わりも含めて、女性研究者の視点からいろいろと議論してみたいと思います。その中から女性のリーダーシップとはどういう特徴があるのかなど、考えてみたいと思います。

愛知大学共同研究助成金「女性研究者のリーダーシップ」(代表 坂東昌子)主催
女性研究者の会：京都 協賛